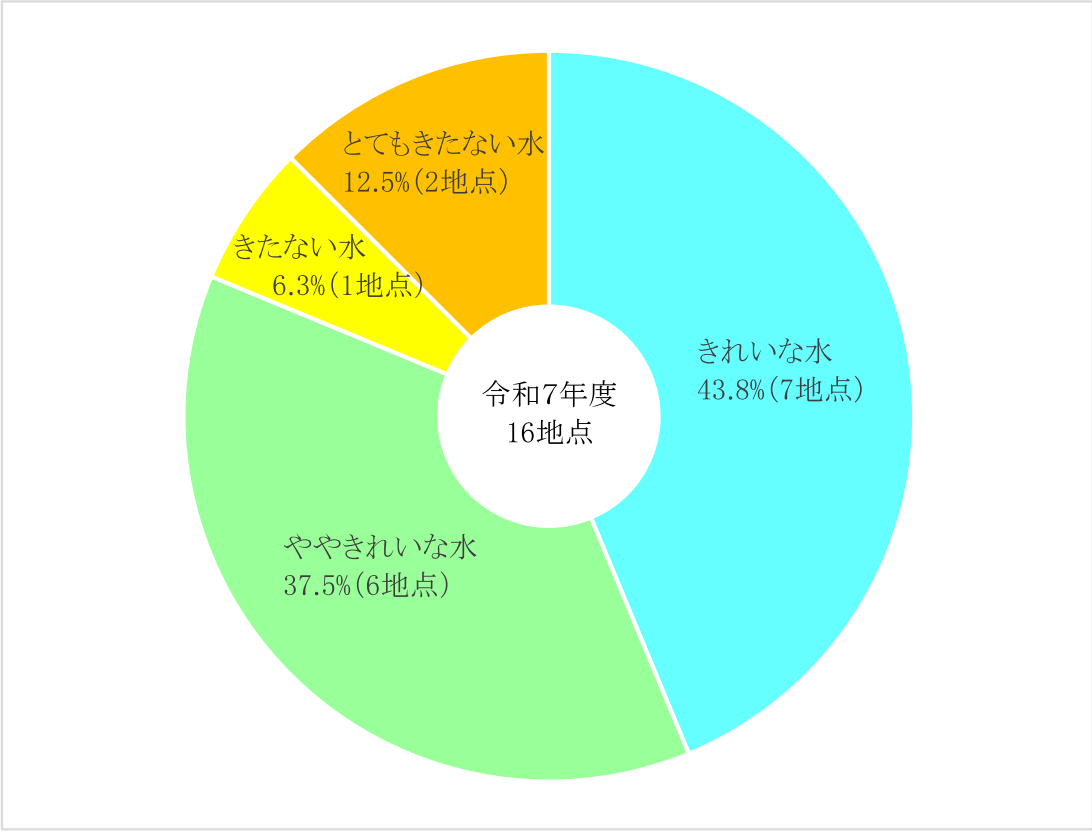


2. 調査結果

(1)水質階級別調査地点数の割合

水質階級別調査地点数は、図 1 に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は 7 地点(43.8%)、“ややきれいな水”と判定された地点は6地点(37.5%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は1地点 (6.3%)、“とてもきたない水”と判定された地点は 2 地点(12.5%)であった。



＜図 1＞水質階級別調査地点数の割合

(2)前年度に対する水質階級の比較

令和7年度の調査地点 16 地点のうち 9 地点が令和 6 年度と同じ地点での調査であった。水質階級を比較すると、同じであったところが 4 地点、良くなったところが 2 地点、悪くなったところが 3 地点であった。(表 2)。

	前年度より 良くなった	前年度と 変わらない	前年度より 悪くなった	計
地 点 数	2	4	3	9
割合 (%)	22.2	44.4	33.3	100

(3)水生生物調査結果一覧

水生生物調査結果一覧を表 3 に示す。

(4)指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度及び最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表 4 のとおりである。

＜表 4＞ 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質 階級	指標生物		指標生物(○+●)		出現割合 (%)	優占種(●)	
			頻度(回)	割合(%)		頻度(回)	割合(%)
Ⅰ きれいな水	1	アミカ類	0	0.0	38.6	0	0.0
	2	ナミウズムシ	5	6.0		2	5.7
	3	カワゲラ類	5	6.0		2	5.7
	4	サワガニ	7	8.4		5	14.3
	5	ナガレトビケラ類	2	2.4		1	2.9
	6	ヒラタカゲロウ類	3	3.6		1	2.9
	7	ブユ類	2	2.4		0	0.0
	8	ヘビトンボ	1	1.2		1	2.9
	9	ヤマトビケラ類	4	4.8		2	5.7
	10	ヨコエビ類	3	3.6		1	2.9
Ⅱ ややきれいな水	11	イシマキガイ ※	4	4.8	25.3	3	8.6
	12	オオシマトビケラ	2	2.4		2	5.7
	13	カワニナ類	5	6.0		1	2.9
	14	ゲンジボタル	0	0.0		0	0.0
	15	コオニヤンマ	1	1.2		0	0.0
	16	コガタシマトビケラ類	1	1.2		0	0.0
	17	ヒラタドロムシ類	4	4.8		0	0.0
	18	ヤマトシジミ ※	4	4.8		2	5.7
Ⅲ きたない水	19	イソコツブムシ類 ※	0	0.0	20.5	0	0.0
	20	タニシ類	3	3.6		1	2.9
	21	ニホンドロソコエビ ※	1	1.2		0	0.0
	22	シマイシビル	7	8.4		3	8.6
	23	ミズカマキリ	3	3.6		1	2.9
	24	ミズムシ	3	3.6		1	2.9
Ⅳ きとたない水	25	アメリカザリガニ	1	1.2	15.7	1	2.9
	26	エラミミズ	3	3.6		0	0.0
	27	サカマキガイ	4	4.8		3	8.6
	28	ユスリカ類	4	4.8		2	5.7
	29	チョウバエ類	1	1.2		0	0.0
合 計			83	99.6	100.1	35	100.4

(注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域の生物

(注) 割合については四捨五入のため、合計が 100%にならないことがある。